明治四十四年二月廿五日發行
每月一回十五日發行

婦人新報

第百六十四號

日本基督教婦人矯風會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人新報第百六十三號

目次

○社説
○男子の節操問題と婦女界
大澤片山兩醫學博士
海軍大將、江原素六君
鎌田慶應義塾長
○廢娼問題に對し和歌山縣知事の英斷を祝ふ
○敎壇
たうげ　植村牧師
○平和運動と在米人の平和協會　レスアピス
○家庭衛生
○窒扶斯の豫防法　TT生
○吉岸屋氏を訪ふ　東子
○内外通信
本部、大阪、和歌山、静岡、呉、堺、宇都宮
○社告

社告

◎婦人新報定價(郵稅共)
一部(前金)　金六錢
六部(前金)　金三十五錢
十二部(前金)　金七十錢
(郵券代用一割増)

◎廣告料
一行(五號活字)　金十錢

明治四十四年二月廿四日印刷
明治四十四年二月廿五日發行
發行兼印刷人　本多テイ
編輯人　横倉ヒデ
發行所　婦人新報社　東京市小石川區原町廿三番地
編輯及事務所　小石川區原町二十三番地

No,1:4　March 1910

WOMAN'S HERALD.

Be man and woman, true and faithful to each other.
Be brave and strong against the moral sin, Oh Hon. Governer of
Wakayam.
Worship God in your every circumstance.
Organization of the Peace Association by the Americans in
Japan.
Home Dept.
W. C. T. U. News.
Headquaters, Osaka, Wakayama, Shizuoka, Kure Hiroaki,
Y. Branch. Sakai, Utsunomiya.

FUJIN SHIMPO OFFICE.
No. 23, Haramachi Koishikawa Tokyo,
70 sen per Annum. Single Copy 6 sen.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人新報第百六十四號

（明治四十四年二月十五日發行）

社説

男子の品行問題と婦女界

雜誌婦女界二月號に、男子の品行問題につきて、諸名家の説が載つて居ります、此記事の多くは男子の品行問題と云ふよりも、寧ろ男子の不品行に對して妻の覺悟と心懸と云ふやうな事柄が揭られてあります、私共は該紙のやうな有力な紙面に於て、男子の不品行に對する社會の態度につきて、今少し切り込んで欲しいかつたと思ひます、今日の社會が節操問題に於て婦女を責むるの甚だ嚴しく、しかも男子を俟つの甚だ緩寧ろ無頓著であるのを見て、一般道德心の高からざるを私共は嘆じて居る事であります、靑年男女の指導者てあるべき壯年者が、破倫な行爲があつても社會が之に制裁を加へると云ふ事は實に少ない事で殊に社會の木鐸を以てゆるす處の新聞紙が一種の風流談として寧ろ讀者の好奇心を挑發せんとして居ります、先年さる上流にある貴婦人が役者と關係があつたとか申して、社會は其裏面にある情實に一偏の同情もなく、殘酷なる宣告を下した其婦人を終生悲哀と失望と自棄との裡に葬つてしまいました、之に反して所謂貴顯紳士と稱せらるゝ人々の不品行不行狀に對して、社會は果してどれ丈の制裁を加へて居る事でせう、嚴正なる英國の社會は一度花柳の巷の如き醜界に足を踏み入れた紳士は、遂に社會から排斥せられて二度と交際場裡に出入する事をゆるされないと云ふ事ださうですが、我が國の社會は風流才子などゝ申して餘り不思議とも思はない事であります、それは不品行な行爲をなす源因に至つては或は同情すべき節もあるでありませうが、兎も角も社會の良心が今少し銳敏になつて、婦女子に對する制裁を男子にも施こして欲しいと思ひます、斯樣な點に於て婦女界紙上に充分記して戴いたら私共はどれ位嬉

しく思ふか、實に千萬の味方を得たやうに思ふ事てありませう、然し注文は兎も角、斯樣な問題が該紙上に論せられ社會の人々が、また研究の緒を開くの折を與へられた事は、世の矯風に志して居る者の感謝いたす處てあります、長い〳〵間不問に附してあつた男子の節操問題が或る一部の研究となつた事は、時世の進歩が然らしめた事て、社會の幸福に大なる影響を與へる事てあらうと思ひます、而して之れが有力なる男子の方々によつて論せらるゝに至つたのも、また喜ぶべき現象てあらうと思ひます、今左に吾が會の主張に有力なる援助とも思はれたる數名家の卓說を拔萃して、共に人類の幸福を開く一つの鑰といたしたいと思ひます

○醫學上より見たる男子の不品行　（婦女界轉載）

醫學博士　大澤謙二

▲不品行より生ずる病氣

私は男子の不品行といふことが原因となつて、人類生活の上に如何に恐るべき害毒を流しつゝあるかに就て、醫師としての立場よりお話して見たいと思ひます。併し此の事は餘り露骨といふを憚る事柄てあります故男子の不品行が直接の原因となつて生ずる所の病氣を假りに不品行病と名け、その中の一種を甲種病今一つの方を乙種病と假稱してお話し致しませう。或は斯く甲種病　乙種病　などゝ假稱した爲に、その病氣の果して何物てあるかゞ十分に解らなくて、一寸見當が付かないといふ恐れがあるかも知れませんが實はそんなことは何うても宜しいのて、唯男子の不品行から生じた病氣は、斯くも恐るべき害毒を流すものてあるといふことが解りさへすれば、それて私の希望は達せらるゝ次第てあります。

▲流產早產の原因は何か

素行の修まらなかつた男子が、一度甲種の不品行病に罹つたとするならば、治療の結果一旦屛息して居つたとしても、全然根治しない限りは、必ずその妻女に傳染するものてあるといふことは、今改めて申す迄も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ないのであるが、更に恐るべきは、此の病毒がその胎兒にまでも及ぶといふことであります。即ち胎兒の此の病毒を受けると、その受ける度合が強ければ、四五ケ月位で流産し、弱くて早産、最も輕くて出産だけは出來ても、先づ早死するのが普通です。て極々輕くて幸ひに生育することが出來たとしても、極めて病身な、、、ひく〳〵者で、當人や家庭にとつての不幸は申すまでもないことでありますが、斯かる羸弱なる國民の出來るのは、國家に取つても甚だ迷惑なる負擔であると申さねばなりません。斯の如く單に一身一家の不幸たるに止まらずして、病毒を長く子孫に傳へ、國家社會までも惡影響を及ぼすものであるとしたならば、實に戰慄すべきことであらうと思ひます。されば斯かる害毒の原因たる男子の不品行といふことに就ては、戒愼の上にも戒愼を加へて、一旦の過ちに子孫百代の不幸を遺さぬやうに致したいものであります。

甲種病毒の爲に屢々流産した實例を申しますと、洋行歸りの某紳士と結婚した一婦人が、妊娠する度每に悉く流産して仕舞ふので、餘りの事に驚いて産科醫の診察を受けると、之は全く甲種不品行病の結果であるといふことから、俄に騒ぎ立てゝ夫の身の上を段々調べて見ると、全く外國に留學中の不品行が報つて來たのだといふことが解り、今更ながらに結婚前に於ける不十分なる穿鑿を悔い、子なき家庭の不幸を歎いたといふことであります。

▲病毒は間接にも傳染す

此の病毒に就て更に恐るべきことは、直接の關係ある者の間に、猛烈に傳染するといふばかりでなく恰も肺病者の用ゐた被服や器具の類から病毒の傳染を受けるが如く、此の甲種不品行病からも亦間接に傳染する恐れがあるといふことであります。例へば飲食用の食器とか、或は煙管、喇叭の類からも傳染するといふことです。時には醫療器械の消毒の不十分であつたが爲に傳染することもあるさうで、今日の如く牛痘を用ゐないで、人痘を用ゐた時代には、種痘の際に病毒を感染させたことがあつたさうです。果して然うであると

すれば、此種の病毒の如何に恐るべきものであるかといふことは、略、理解が出來るであらうと思ひます。

▲盲目の原因としての乙種病

世人は前述の甲種不品行病に就ては、相當の警戒を加へて居るやうでありますが、此の乙種病の方は左程に恐れて居ないやうです。處が或點に於ては却つて前のものよりも一層恐るべきものがあるので、先づ此の病毒を盲目の原因として見た方の側からお話し致しますと、此の病毒に觸れた手、若くは此の病毒の附着して居る手拭や手巾で眼を拭つた爲に一種の結膜炎といふのを發して、之が爲に遂に盲目となつて仕舞ふといふ例は隨分澤山あるのです。それから此の病毒が嬰兒に及ぼす害と來ては一層大なるもので、それは出產後に、母とか亂母とか又は子守などの不注意の爲に、恐るべき病毒が眼に入つて遂に明を失ふといふ樣な例も澤山ありますが、出產の際に產道に於て病毒を受け、生れながらの盲目となるのが一番多いのであります。こんな次第で古今東西に於ける盲目の大部分は、此の乙種不品行病より來る所の猛烈なる病毒がその原因をなして居るので現に獨逸の統計に依て見ると、此の病毒の爲に失明する者が、百人の產兒中、二十人乃至七十五人にも及んで居るといふことです。實に斯の如きの經路を以て、生れながらにして天日を仰ぐことの出來ない多くの不幸なる同胞を見るのであるとしたならば、眞に慄然として恐れざるを得ないではありませんか。

▲婦人の癪は此の病氣から

婦人の持病となつて居る所謂癪といふ病氣は、矢張此の病毒から來て居るので、統計に依て見ると、此の病氣のある婦人で子を儲けたのは百人中僅かに二人しかないといふことです。此の病氣が婦人の境遇をして如何に不幸ならしむるものであるかといふことは、眼一度び此の種の婦人を見たものは直ちに感ずるであらうと思ひます。此の病毒が身體の內部に侵入して居る婦人の著しき特徵を申せば、頬落ち眼凹み、蒼白き顏面には黃斑さへ出來て如何にも醜く、そのひよろ〳〵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

として室内に歩行すらも自由ならざる有様は、恰も末期に近いて居る肺病患者の様であつて、見るものをして如何にも同情に堪へざらしむるのであります。更にその子なき不幸に想到するならば一層悲惨の感を覺ゆる次第であります。

▲健康證の交換

要するに私は、男子の不品行が原因となつて上來述ふるが如き害毒を社會に流しつゝあるのだといふことを、廣く世人に知らしめ、男子をしてはその品行を愼しませ、女子をしてはが生の浮沈に關する結婚に就て多大なる警戒を加へさしたいものであると思ひます。

固より結婚に就ての注意すべき重大なる要件は一二にして足らないのでありませうが、中にも最も大切なことであつて、意外にも世人が疎んじて居るらしく思はれる、相互の健康狀態といふことに就ては是非とも新たなる注意を拂つて戴きたいものであります。先づ結婚せんとするものは、信用ある專門の醫師に就て健康診斷を求め、醫師としては責任を以て認められたる健康證といふのを請ひ受け、之を男女互に交換して十分に研究した上て婚約を結ぶといふことにしたならば遺傳素質の善惡を判知し得るのみならず、前記の如き戰慄すべき不品行病を豫防することが出來るであらうと思ひます。されば此の健康證を利用して、假りにも不品行の形跡ある男子に對しては、如何なる事情ありとも一切婚約を結ばないといふ位の見識を、女子の側から示すことが出來たならば、男子の不品行に決して今日の如く甚しきものにはならないてあらいと思ひます。

尤も此の健康證の交換といふことは、一寸困難な問題であるが爲に、或ひはその實行をあやぶむ樣な人もあるてせうが、兎に角結婚といふ新たなる事件に依て、人間一生、否子孫百代の苦樂浮沈を決するものであるとして考へたならば、少しの不便や困難位は忍んて實行すべきてあらうと思ひます。

因に私の所謂健康證に記載すべき事項は凡そ次の如きものては何うてあらうかと思つて居ます。

一、本人の氏名。二、族籍。
三、誕生の年月日及場所並に現年齡。
四、職業及現住所。
五、飮酒及喫煙の程度。
六、病歷及び目下の健康狀態。
七、三等親內の直系及び傍系血族に就ての諸關係。

尙ほ此の諸關係を分類して見ますと大要次の樣なものであらうと思ひます。イ、生存年齡。ロ、死亡年齡。ハ、死因。ニ、結核。ホ、癩病。ヘ、黴毒。ト、酒精中毒。チ、精神病。リ、神經病ヌ、變質者。ル、眼病。ヲ、代謝機病。ワ、其他血友病。佝僂病。動脈硬變。癌腫肉腫等。

○不品行は多く酒より來る（婦女界轉載）

醫學博士　片山國嘉

▲高尙なる愛の力を以て

今日の男子に兎角不品行な者が多いといふに就ては固より種々の原因もあるでせうが、多くの家庭に於て高尙なる愛といふことの缺けてをるのは、確かにその一因であらうと思ひます。女は一家の主婦となると家

政のことにばかり身を入れ過ぎて、夫に對する愛の方は、動もすれば疎になり勝ちて、夫は夫、自分は自分といつた樣な親しみの乏しい風が見えます。そこになると流石の人の機嫌をとることに妙を得て居る花柳界の手合は、直ちに家庭の短所を見拔いて、そこを補ふのがこちらの役目、奧さんの手の屆かない所に私の方で一切引受けますと言はねばかりの調子で、痒い所に手の屆く樣な待遇をするので、大抵の男子はその術中に丸め込まれて仕舞ふ樣であります。

それならば、家庭の方でも彼等の向ふを張つて、陽氣に酒でも勸いてチヤホヤ夫の機嫌を取つたらそれで好いのかと申すに、一方は商賣柄のこと、此方は素人業のことても迚も及び難い話でもあり、且つ健全なる家庭としては甚だ望ましからぬことでありますから、そこは何うしても高尙なる愛の力を以て、言ひ換へれば一種の冒し難い誠心誠意の籠つた女の德を以て、夫を感動させるといふ方でなくてはなりません。併し之は女子としての精神修養が十分に出來てからでなけれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ば行はれ難いことなので、一朝一夕に此の力を得ようといふ譯には參りますまい。此の點から考へると、今日の女學校の敎育は、肝心な精神修養の方面が缺けて居て、何うも效力が乏しい樣に思はれます。

▲酒が原因となる

併し高尙なる愛の缺乏といふやうなことは、先づ間接の原因となる位のもので、直接の原因とも見るべきものは矢張酒の方である。幾ら家庭が面白くないからと言つて、白面で待合遊びも出來ますまいし、氣に入つた女があるからといふので、その儘圍つて置くといふ樣なことは一寸なさゝうです。多くは例の宴會崩れといふのが媒介となるので、『一度は待合へも行つて見給へ、なか／＼面白いものだよ』などと友人に唆かされるのがそも／＼の始めとなつて、斯う足繁く待合に出入するのは却つて不經濟だなどと、飛んだ所に不經濟呼はりをし、いつそのこと圍つて置いた方がといふ樣な順序になるのです。

先づざつと斯ういふ樣な次第であるとすれば、男子の不品行を豫防しようといふには、酒を飮まさない工夫が何よりだと思ひます。それも眞甲から『貴方お酒を召上るとついお遊びにいらつしやる樣になりますから、何うも是ればかりは』といふ風に言へば、如何にも嫉妬らしく聞へて却つて夫婦喧嘩の種を蒔くやうなことにもなるでありませうが、そこの所が旨く、夫の身體を思ひ子供の爲めを思ふ誠心誠意から、諄々と說き込んで行つたならば、夫に禁酒さする位は決して困難なことはありますまい。

然るに何うかすると之とは全く反對で、酒さへ飮まして置けば御機嫌だからといふので、酒で夫の機嫌を取らうといふ樣な間違つたことをして居る婦人があり甚だしきは、偶には憂晴しに、お遊びになつてもと言はぬばかりに、粋を利かした積りで、夫の懷中にそつと小遣錢を入れて置くとか、又は酒で機嫌を取つて置いて、自分も其處其處と出歩いたり、若くは、自分の欲しい物を强請つたり、自分の野心を滿足させたりする方の便宜を得ようなどゝいふ樣なのもあるさうで、

是等は實に沙汰の限りと申さねばなりません。

○靈の宮殿、趣味の生（婦女界轉

向　軍　治　氏

夫たるものは、道は一のみといふ觀念を堅く守り一以て之を貫くといふ主義を實行し、己れの身體は己れの勝手に處分すべきものでなくて、吾に道を行はしめんが爲に、天より與へられたるもの、高尙なる理想を宿らし、潔白なる行ひに用ゐる爲に備へられたるものと觀念して居らねばならぬ。耶蘇敎では身體は靈の宮殿であると言つて居る。此の思想に凝り固つたものは此の身體を汚さんと欲しても到底出來ないのである。此の偉大なる思想に比べて見ると、身體髮膚之を父母に受く、敢て毀傷せざるは孝の始めなりなどゝいふ敎は、殆んど兒戯に類した幼稚な敎へであることが解るであらう。

人生必ずしも愉快なことばかりではない、事務を取る上に於て、世間と對する上に於て、困難もあれば不愉快なこともある。常に新なる力を養ひ得んが爲には何うしても快樂を得る道がなくてはならぬ故に男子一人前の仕事をする人は、縱令不平はなくとも、趣味に依て理想を高くし、以て浩然の氣を養ふ必要がある。況んや不平のある人は高尙なる趣味に依て慰めを得ることが出來なければ、酒か女かを相手とするより外はないことゝなる。音樂、繪畫、詩歌、遊戯、讀書などの高尙なる趣味の養成が欠乏して居るといふことが、今日の夫たるものゝ墮落する大なる原因となつて居る。

▲健全なる身體、鞏固なる精神

不道德を以て意志の薄弱なるのみに歸せんとするのは、如何にも時勢後れの考である。鞏固なる意志は身體が健全でなければ出來ない。健全ならざる身體の人は道德上責むるよりも、寧ろ憫むべき人である。攝生が不行屆であれば、身體の不完全なる結果が精神上に病氣を起し、遂に道德的生活の出來ない人となるのであつて、即ちせざるにあらず、能はざるなりの人とな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るのである。
學生に向つて體育の奬勵をする人はあるが、成人以上の攝生のことは世人殆んど忘れて居る。一體日本人は、大人になると無邪氣といふ德を失ひ、天然を樂しむ國民でありながら、室内の蟄居を喜び、甚だしきは遊戲運動を耻と思ふ樣なものも居る。不活潑と行儀正しきことを混同するのが普通である。時間詰の規則正しい生活に慣れないが爲に、運動の時間がなくなる。遊ぶとなると放佚に流れる。その結果神經衰弱に陷つて、不道德の要素を體質に備へ付けるとなる。酒と色との二勁敵と戰はんが爲には是非共健全なる身體と鞏固なる精神とがなくてはならぬ。

▲時勢遲れの夢

夫たるものが、若しも責任觀念强かりせば、業務を怠りて放蕩をし、社會、國家、人類等に對する責任を怠つて不品行を敢てし、妻を棄て子を顧みずして酒色に耽り、家庭の和樂を破壞して獨り自ら樂しむといふ間違つた行爲は出來ない筈である。

要するに本問題を解決せんとするには、日本人の世界觀、人生觀を根本的に改良する必要がある、家族行がよいとか、孝道が大事だとかいふ樣な時勢後れの夢を見て居る間は、迚も文明社會に適應した高尚なる理想の化身ともいふべき夫を得ることは出來ないであらうと思ふ。

○男子に自尊心を與へよ

男子の不品行になる外の原因は慥に婦人にあり社會にあるのであるが、其の原因だけを除いても、男子自身にある、内の原因を除かなければ駄目である。私は男子の内の弱點に克つて、其の純潔を完うするには、自尊心に訴へることが最もよいと思ふ。誘惑の多い青年に向つて。婦人に近く勿れ、身を誤る勿れと戒めた所で、何の力もない、監督をいくら嚴重にした所で、拔けやうと思へばいくらでも拔けられる。それよりは己れ自らを重んぜしめ、種々の弱點に克つて心身を純潔に保つことは、男子たるもの丶義務であり、誇りて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あると思ふやうになれば大抵の誘惑には克てると思ふ

(慶應義塾々長鎌田榮吉君)

○根本より改めよ

江原素六君

自分の思ふ處に依ると、人間の品位が高まり教育が普及するにつれて、此の封建時代の遺物なる蓄妾の惡風習は段々なくなつて來る。扨て之を爲すには、如何なる力に依るべきであらうか。民法上では婦人の權利も認められ、夫に不正の行爲のあつた場合に、正々堂々と離婚をすることも出來る樣になつて居る。一般に亦之を認めて來た。併し我國の道德習慣は他の國と自ら異つて居るから、無暗に法律をふり廻すことはどうかと思ふ。私はどうしても教育と宗教の力に待たねばならぬと思ふのである。法律の力でやるのも惡くはなからうけれども、教育と宗教の力でやる方が、根本的で、且つ誠に自然に、又確實な方法だと信じて居る。私は此等の見解からして、我が中學の五年生の爲に第三學期卽ち卒業の前になると、倫理科で結婚の心得、父たる務め、其他種種男女間の問題に就て教訓することにして居るが中々に効果がある樣だ。

今の若い者が前途を誤るのは多く此男女關係の問題である。又前後も考へず一時の戀愛の爲に親の不承知もかまはずに結婚して生涯の不幸を招くものも中々ある。妻を迎へ人に嫁く者は深く考へねばならぬ。是等のことは宗教なくとも出來得るものもあるが、一般から云へば是非一種の確かな信仰が必要だと思ふ。酒色に耽り賤妓に戯るゝのも同じことだ。男子の貞操と云ふことも、要するに是等の道德問題が根本なのであるから、先づ以てこれから改色して行かねばならぬ。

▲我が恐るゝは我が愛する妻

話は一轉するがハーバート・スペンサーが云ふた言に「我が恐るゝは我が愛する妻なりと云ふことがある。若し妻たる者が立派な精神を持し、堅固な道德心を有し、親として子を敎ふる道を得て居るならば、これ實に良人たる者の非常な幸福であるのみならず、自然不

道德な行爲が出來ぬ樣になる。是等の點を年若い婦人方に心に留めて欲しいと思つて居る。

之と反對に。妻として良人に仕へる上に足らぬ所があると、自然男子の不品行を來すやうな場合もある。若し婦人にして確たる信仰を有し、且つ相當の考を有つて一家の事に當り、又良人に仕へたならば、スペンサーの所謂「我が恐るゝのは我が愛する妻なり」といふ樣なとになるてあらう。斯くならずして唯だ〲男子ばかりを責むるのは間違つて居る。こゝに鳥渡注意して置くのは、此恐ろしいと云ふのは嫉妬深いとか我儘だとか良人を尻に敷くなどゝいふ樣な意味てない要するに夫婦間の眞正の愛を云ふたのてある。是等のとは、敎師も敎ふべく父母は無論のとてある。（婦女界轉載）

轉居

東京市小石川區原町二十三

横倉秀

婦人新報社

○置娼問題に對し和歌山縣知事の英斷を希望す

兼て和歌山市々會に於て。置娼建議案が三四名の多數を以て、可決いたされた事は、既に讀者諸氏の御承知の事てありますが、今尙ほ其問題は解決せられずして吾が會員の憂慮運動を續けて居る次第てあります、さきに我が本部役員は內務省に縷々陳情する處あり、また川上知事に向つても陳情して居る事てもあり、從つて同市に於ける吾が會員は數々知事若しくは市の有力者を訪問して、活動して居られる事てあるが、まだ何等確たる解決を見ぬ事てあります、最近同市よりの便によれば、置娼派の人々が名を高等工業學校設立にかりて、さる十二日上京し內務省に嘆願する處あると云ふ事てある、本部は此報に接して早々內務省に警保局書記官を訪ねて、訪問の理由をのべあらかじめ防禦策を講じて置きましたが、如何にしても大々的運動をせねばならぬと思つて其運動に着手して居る事てありま

す、また和歌山支部役員が建議案に就て知事の意向を伺ひしたら、私としては公娼設置には賛成はせぬが、今尙ほ研究中てあるから非と認むる場合には市民の大多數が置娼を希望しても決して許可を與へないと申されたさうてす、公平にして賢明なる川上知事は確かに正義に與して、人類の幸福の爲めに滿足なる解決を與へらるゝ事を私共は確信する者てありますが、荏苒時を移して此問題の落著を見る事の遲きは、聊か物足らぬ感がいたします、奸惡の徒はこの時を利用してまた何事をか仕出すか知れません、一刻も早やく川上知事の大英斷を望むものてあります。

教壇

○たうげ(校閲をへず)

植村牧師

峠と云ふ言葉があるが、之は旅人の行惱む處、即ち分水嶺をさしたものてある、今ては旅行をすることは至つて便利て、交通機關が充分に備たつて居るから、昔の峠のあつた處もどこ〳〵の七回など申て今は其跡を偲ぶばかりてあるが昔吾々の祖先が旅をした時には、いくら行つても涯てしのない嶮しい道を上つたり下つたりしたものてある、それて旅立をする時には必ず神佛に拜をして、行くものも止まるものも事なかれかしと祈つたものてある、されば東西に分かれる處て手向をする事が習慣となつて居つた、そこてこの神佛を拜みて手向をする處をたうげと名づけたのてある、昔の人は互に袖を分つ場合には必ず眞面目に考へて、水盃などをして暫の分れても惜しみて嚴かにしたものてある。

人生の行路に於ても、この峠は絶えずあるのてある、縱令ば病氣て九死一生の場合てある、人間が九死一生の刹那には、必ず神を拜んて神佛に詣てゝお札を戴たり、祈禱を捧げて貰らつたりする、頃日報知新聞に故雨宮敬次郎氏が病が重くなつたときに、態々人を遣はして古郷の氏神に拜をさせて、壽命の長かれと祈らしたとあつた、あの剛情な不屈な元氣のよい人てさへ

峠に來た時には信仰を起したのである、人間一生の大峠永遠と現世との分水嶺に來た時には、人は必ず拜をする信仰心を起すものである。

其他結婚出產も矢張一ツの峠である、婚姻はなか〳〵に冒險であると云ふ話があるが、出產も同じ事である、凡ての變化のある時には如何なる事が起るべきや豫知する事が出來ない、色々の變化がくる、幸か不幸か、下るか上るか皆冒險的の業である、又場合によつては出世の不爲めになる事もあり、それは種々樣々な事柄が起る事である、然しこの難所に來つても無頓着に通つて行くならば、恰ど小人球玉を懷いて却て罪を造る樣なもので幸が却て禍を招くもと〻なるのである、彼の大罪を犯した幸德傳次郎は中江長民と云ふ人の弟子であつて、其人の無神無靈を筆記して出版した、之を雲照律師が見まして之は大事件である將來必ず國に禍を起す事があると預言せられたが果してそうであつた。

人生五十年を醉生夢死に過ごす事は甚だ危險である實に憂ふべき事である、大和民族には神信心をする敬虔な信仰心があるのである、人生の峠に逢ひてどうしても無神を稱へる事は出來ないのである、今は人に分れる時に送別會をして宴會をして、狂態を演ずるが、昔は手向をして神を拜んで別れたものである、此美習はいつまでも保存して置きたいものである、顧れば今日の社會の狀態は如何であるか、理屈にのみ走つて人義は全く頹れて實業熱ばかり盛である、敬神畏天の念が衰へて、遂に無神無靈を云ふになつたのは殘念な次第である。

皆樣は同樣に一ツの峠にか〻つて居ります。送年迎春は人生の峠である、お互に今少し眞面目に考へて、信仰的の生涯を送りたいと思ふ、靈、死も、人間の罪について御熟考を願ひたい、徒に鼻唄を唱つて嶺を通り過ごす馬子のやうな空しい生涯を送りたくないと皆樣も思ひであらう、どうか手向の心もて凡てにあたつて欲しい、舊約全書の創世記と云ふふみに、イサクと云ふ人の家庭の事が書いてある、主人のイサクはまとに善良な人ていはゞお人よしてあつた、妻なるリベカと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

申す夫人は、賢こい氣のきく婦人であつた、彼等にイサウとヤコブと云ふ二人の男子があつたが、兄のイサウは勇肌な機嫌變ひな實に感情的な人で、弟は鋭敏な心根のある人であつた、イサウ夫婦は神信の念の深い人々であつたから、此家庭も圓滿でなければならなかつたが、なか／＼さうは行かなかつた、ヤコブは自分の利益のみを計らんとして、色々と奸智をめぐらしたものから、遂に大波亂を起して家に居られなくなつて旅の途へと志した、もう之れからは助けるものも保護するものもない、自分の腕一本でやつて行かねばならぬ彼にとつては大なる時にさしかゝつたのである、別離の悲に、浮世の波に舟出する淋しい決心に彼の心は千々に亂れた事であらう、定まらぬ旅寢の夢に、幾分かなつかしい慈母の膝にいだかれて泣き悲しんだ事もあつたであらう、ある日の夕ぐれたよりもない淋しい野に結びがたき夢を結まねばならぬ事になつた、古往今來を思ひわづひらて疲れはてゝ石を枕にまとろむともなくうと／＼とした、すると自分の枕にした石の上に夫々天に達する梯子があつて天使がそこを下り上りして居る、ふと眼を醒すとそれは夢であつて、自分は依然荒野にあつた、然し彼はこゝは神の家と思つて初めて賴母しく力づきてまた恐ろしくも感じて、頼ない木から落ちた猿の如く心細かつた彼は直ちに勇んで神を拜んだ、彼はこゝに手向の石碑を立てゝ、光明ある旅へと進み出てた、彼はこの夢を一生心に銘じて、此時から生れ變つた立派な人となつた、この大時に來てヤコブは決して空しくは過ぎなかつた、彼は手向をしてこゝを去つた、五十歩百歩誰の身上にも時はある、其處を輕々しく過さないならば今迄心付かざりし事もよく分り、初めて過去になせし事の間違も分り、將來の方針も定まり、心丈夫になり宗敎心のなき人も信仰心を起すやうになる。

特に婦人の身の上には、姙娠、出產、補育と云ふやうな大なる難所がある、人間が何せ他の動物に比して愛情が深く大きくあるかと云ふと、それには色々と理由もあらうが、畢竟胎內にある事が長く又敎育する時期が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

長いからであらう、鷄の子などの發育はなか〳〵早やくぢきに獨立する事が出來る、人間は全く違ふ獨立し得る迄には長年月を要する、此間父母は愛情の鍛錬をなす、即ち心遣の多い事によつて、益々愛情が發達するのである、それを母親がぼんやりして居ては愚な事である、苦痛厄介骨折も皆深さ意味があつての事である、之を活して用ゐれば大なる教訓となつて愛情宗敎心を益々發達し得るに至る、私はある片田舍に婦人が集つて倶樂部樣の者を造つて觀音樣に供物をして信神をする樣を見て趣味深く感ずる事であつた、子供を教育する事を眞面目に考へれば手向せずには居られまい人はいつも人生の峠にかゝつた時の心を持つて居て欲しい、然れば必ず勝利の生涯を送る事が出來ると思ふ、のどもと過ぐれば暑を忘れるやうな輕薄ては、兎ても六ケ敷い人生を有益に過す事は出來ない、西行法師は富士の麓を通つたても浮々しては過ぎ行かなかつた、花を見て團子を食べて滿足する人もあるが、之れては、實に人生が價のないものてある、ヤコブのやうに夢さめて之もまた神の家なりと感しなければならぬ、多くの人は心こゝにあらざれば見ども見ず聞けども聞えずと云ふ有樣である、ヤコブは石を立てゝ後の印とした、私共も此心懸が欲しい、樣々の峠に出遇ふた時はいつもたむけをしてそれを永遠なく我が胸にたゝみて安神立命を得て人類の幸福を全うする道を講じたいと思ふ、此の手向の心はやがて美はしい信仰心を生んて靈性に生れた人となる源泉となるのてある

(文責記者有り)

右のお話は清泉會に於て植村牧師の話されし大略なり。

○在留米人の平和協會創立

在留米人は一月三十日横濱萬國館に會し、平和協會設立の決議をなせり、會する者總て百餘名各方面の有力者を網羅せり。

議長ブレーク氏

先づ立つて平和は國民の發展幸福を增進する必須の要

案なりとし、之に向つて努力するは人の道なりと說き、夫れより大統領タフト氏が平和の唱導者にして、且つ輿論の援護者なるを欣び、引いて大使オブライエン氏に及び、彼の立脚地明瞭にして兩國の親善に努むるを賞讃し、次に在留米人の位置を論じ、輿論を求むるは至難なれど、宗教界は勿論實業界も該主義に賛同ならん、若し兩國間に隔意ありと唱ふる者あらば、余は諸君と共に絕對に之を否定せんと斷じ、(喝采)終りに委員の希望を陳べて日米兩國民の、等しく渴望せる事斯の如く顯著なる兩國の親善に資せん爲め、有力なる一大機關の組織せられん事を以てす次て、會の組織報告、會長役員等の任命あり、次て

大使オブライエン氏

立つて彼は先づ在留同胞が異境に在りて斯くも崇高なる目的を以て該協會を設立せるに滿腔の同意を表し進んで戰爭の悲慘を救ふ仲裁々判は文明の賜にして米國は常に其友なりと說き兩國民の親善なる關係を保全するは在留米人の義務なりとし隣國の好みを全からしめんには在留米人の手を經るに非ざれば他に求むる能はずとなし、喝采聲裡に演了し次て

グード氏

は提案に強き賛同の意を表し、輿論の勢力正義公道の提携すべきを論じ、喝采を拍し。

決　議

に入り祝會の目的を述べに次大要左の如き決議文の朗讀あり終りて、喝采場裡に閉會す。

日本に居住せる米人は茲に日米の平和と相互の友情を增進せんが爲め一大平和協會を設立せん事を望む米國の一部に於て日本の輿論に米國に敵意ありとの風說を傳ふるも日本の輿論及日本政府の意圖は毫も危險なる性質を帶ぶるものに非ざる事は我々在留者の夙に諒察せる處にして該風說は誤傳若くは自己の利益の爲め徒らに傳播せるものと信ず思ふに日本國民は常に米國政府及米國民に對し最も深厚なる交誼と親善なる意志とを有するのみにして他ある事なし若し此意見に反駁を加ふる者あらばそは如何なる原因によるも根據なき誹謗に過ぎす畢竟兩國國交を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

嫉妬し其不幸を喜ばんとする者ならん若し反論せられずんば其災害の及ぶ所豈兩國の上のみならんや

家庭衛生

○腸窒扶斯の豫防に就て

大學病院内　I　L　生

昨年の大水害以來全國の腸窒扶斯患者の數は激増を來し、衛生警察の多大の能力に拘らず、未だに可成の流行を來してゐるのは誠に悲しむべき現象であると同時に、衛生思想の我國に於て普及せぬ事を遺憾ながら證明している、此際此題目を掲ぐるのもあながち無益でないと信ずるのである。

　窒扶斯菌は如何にして人體内に入るかと云ふに殆ど凡ては人間が窒扶斯菌を嚥下するものである、此際普通存在する程度の胃酸は該菌の生活を奪ふ事は出來ぬので、夫が腸に到達して屢々腸窒扶斯なる疾患を起すのである。即ち豫防法の眼目は菌が人體を去りて後如何にしてまた他の人體内に入りうるかを研究して菌を人體に近かしめぬ方法を取るより他にないのである、さて窒扶斯菌に腸窒扶斯患者の主に大便に混じて外界に去るので、其他尿中にあるいは喀痰中に混じて排泄される場合もある、該菌は中々抵抗力が強いので、糞便の他乾燥の土地停滞せる水、其他氷塊中にても、數週乃至數ヶ月も生活を保續する事が出來るのである。

　豫防法の第一は除穢法を勵行する事である。殊に厠圊の構造に注意して、患者の糞尿中に混ぜる病芽が地中を貫透して井泉に達する事を防がねばならぬ、事實としては飲用水、雜用水がかゝる理由のもとに最も注意すべき媒介者となつてゐる。

　世間では飲料水に對しては可成の注意を拂つてゐる或は完全なる水道の設備或は淨水の煮沸等充分正當な措置をとりをる人も尠くないが、而し雜水の方になると餘り注意するものが少ないやうである、例へば、食膳に供へる食品の調理に如何に嚴密なる消毒防腐の方法を講ずるも、其食品を容るゝ器具を窒扶斯菌を含め

る水で洗ふ時は、必然的に腸窒扶斯の發生を見るのである、此際の注意は至極簡單である、曰く、清淨して后最後に器を熱水に容れよと、されども此注意は中々に行はれぬのである、それから序ながら茲に述ぶるのは、食品を病菌に附着せる手指等で觸るゝ事である、兵營寄宿舍等では全く此危險がないといへぬのである、此等の他に吾人の見て以て危險なりと考ふるは、炭酸水の如き夏季飲料品の原料たる水牛乳を稀釋するに用ゐる水、煮沸せずして用ひる食品の灌注等に用ゐる水等に對する注意の不足ある點である。

腸窒扶斯が空氣を媒介として直接他人に傳染する事は絶無である、即ち患者に接する時も唯上述の事項を注意すれば何も恐るゝ事はないのである、但し充分なる消毒方法は細密なる注意を要するを以て、患者の隔離は特別なる病院にて行ふ必要がある。

次に豫防方法中の最も緊要なる腸窒扶斯患者の兩便の消毒方法を簡單に記載し、次に患者の衣類消毒に對する二三の注意を掲げて此項を結ばふと思ふのである、大小兩便には同量の石灰乳（燒石灰一分、水二—四分）を能く混和し、一時間以上放置してのち便所に捨てねばならぬ、此際用ゐる石灰乳は新鮮なるほど消毒の効があるので三日以上を經過したるものは使用にたへぬ、便所の消毒も同樣である、尿器屎器の消毒も石灰乳で充分なので、石灰乳は最も廉價で最も簡單で而も確實に消毒の効を擧げうる最良の方法である。

また患者の使用せる襯衣、敷布、枕覆等の汚染したるものは、是非一度消毒を企ねば洗濯人に交附してはならぬので、即ち百度の流通蒸氣器中に三十分以上入れ置くか、若くは五十倍の石炭水に二十四時間浸漬する必要がある。

窒扶斯患者に接するもの、即ち醫家看護人は、常に自己の消毒に對する注意の不足により、自己の禍を釀す他、自己がまた傳染の媒介者となるといふ事項を深く識る必要がある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○滿洲の禁酒將軍世津谷氏を訪ふ

東　子

○友の紹介により兼て國の光て名高い滿洲の禁酒將軍世津谷氏を麻布の本邸に御訪問しました。

初めて御目にかゝると申上樣として自分はためらふた故は先年禁酒大會の折に君は滿洲に於ける酒の害毒について熱心に其弊害を述べられた方であつて其時の御話の內容に就ては深く小妹か感し今猶記憶に存して居るお方であつたから——

猶此御家庭と我少年禁酒軍とは面白い關係を有して居る、昨年フレント女學校で矯風會の大會を執行した時少年部大會の日に種々順序に從つふて會を進めて行た時に來賓てあつた宇野中佐は一場の話をされた、其お話は次の樣てあつた。

麻布の某家て赤坊か大病に罹り醫者も見離して其父母は幼なき愛兒の死をまちつゝあつた時に、不思議にも最後の注射が功を奏し再び世の人となるを得た然るに其醫師の言はるゝに此お子かかくまてにあやふき處を助かられたといふは實に不思議な事てお父樣の日常についてお伺ひしたいと思ふ點が御座います、外でも御座いませんかお酒はお飲みになりますまいね——との事に夫人は其良人か禁酒主義に熱心なるものにして飲酒せぬ事を述へられた處醫師は初めて不思議に助かりしお力は全く父親の賜なりとの事を言はれました。

此お話を承はつた會集は直に決議して全家に御祝狀を差出するになつた幼なき禁酒軍人は禁酒繪ハカキに認めて差出した處其受取は即ち今日御訪問申上た處の世津谷氏の御家庭に起つた目出度事てあつたのてある小妹は其お子樣か禁酒軍の軍人にならるゝへき方であると申上た、氏は笑まれた。

宇野中佐平田牧師も御で同席あつた爲に種々有益なお話を伺ふ事が出來た。

○喜ぶ可き事と考ふ可き事

世津谷氏滿洲は私が參た時から（七年前）見ると餘程進で來て居りまして種々なる點から祝すべき現象を見出す事が出來ます、先づ滿洲に於ける貯金々額と云ふものは我國第一位で特に一個人が預金する額が最高であるといふ事はたしかに喜ぶ可き事と思ひます、猶昨今では辯護士が其職を續けて行く事が出來なくなり內地に立ち歸るもの或は朝鮮に轉ずるものが續々出づるといふ事は全く萬事が整頓して來た結果と見て差しつかへがないと思ひます。

吾々宗教を信ずるもの〻立場から申して一層反省して進まねばならぬと思ひます事は色々設立さる〻會の會長の如き重要なる位置の人を選ぶに宗教家を擧ぐるといふ狀態になつて居ります事です、最も其宗教家

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

といふてもキリスト教といふばかりでなく所謂信念の堅い人といふ事を重んじて居るといふ事で余程考へた結果と見なければならぬと思ひます。

○不思議に感ずる事

我が租借地である廣東州で阿片の販賣を許可して居る事であります、清國内地に於ては今では阿片を禁じて其販賣は勿論許可されて居りませぬのに我が租借地なる此廣東州に於て此事をなして居るといふ事は實に不思議とも何とも申樣のない事であると思ふのです、そして其阿片を用ふる處のものは如何なるものかと申さば我等が最も苦しと思ふて常に見つゝある處の我内地の姉妹等にして恐る可くいむ可き醜業を爲しつゝあるものであります、其他は多く清國人等であるといふ事で御座います。

清國の鳳凰城には米國宣教師等の忠言を用ゐて清國人にして日本の煙草を賣る事は許可してありません、最も日本人にして賣るものは別ですが從つて清國人が買つて喫む事も罰するといふ風で御座います、新聞紙などでは排日の結果といふて居りますが米國宣教師等の考は矯風の爲に此事を進めたのであるだらうと思ふて居ります、いづれにもせよ清國の内に禁煙區域のあるといふ事は余程不思議な事であると思ひます。

是と彼とを思ひ競べて見る時に一種言ふ可らざる感にうたれました、實見せられてお出になつた世津谷氏の實に不思議な事であると言はるゝのは御最もであると思ひました。

内地に御靜養の爲にお歸りになられしと何ふてはあまり永く御邪魔するのも本意ならずと思ふてお暇致しました、玄關まで送られし氏のお丈の高き事普通の家よりも遙かに高く作りしとのお話何ひし宅の閾に髪の屆くに驚きつゝ君の御健康と御事業の上に神の祝福を祈り御離れして歸りました。（文責記者にあり）

内外通信

○本部

一月二十三日午後二時より芝フレンド女學校内デビス姉宅に於て、新年親睦を兼ね常置委員會を開く、出席者

矢島、小崎、井澤、スペンサーデビス、根本、山東、守屋、杉本、横倉の諸氏

會頭司會のものに祈禱聖書前回記錄朗讀の後ち、

一、スペンサーデビスの兩姉より、工場令の今議會に於て通過せられん事を希望するの旨を農商務大臣並に貴衆兩院議長に宛て書面を呈せし事をスペンサー姉より報ぜらる。

二、少年禁酒會大會を二月廿五日に神田美土代町青年會館に於て執行せらるゝ事をデビス姉に報ぜらる。

三、西洋婦人矯風會出版委員の汎く江湖に禁酒運動を知らせん爲め少年少姉の雜誌に禁酒會の狀況を揭載せん事の決論をデビス姉報告され之を可決す。

四、和歌山市置娼問題の現狀を横倉姉報ず。

五、會頭の關西旅行談ありこゝに紀州和歌山市に於ける運動を陳述せられ、常置員會より同市支部へ謝狀を呈する事に決し之を通信書記に一任する事に定む

六、慈善館將來の方針につき熟論する處ありしも何等具體的に決したる事なし。

七、矯風會歷史の編纂に著手すべきを論じ可決し横倉デビス兩姉に依托する事に決す。

後ちデビス姉の厚意になれる茶菓を喫し散會したるは黃昏るゝ頃なりき。

二月十三日女子學院に於て常置員會を開く會するもの矢島、井澤、小崎、島田、富永、守屋、デビス、横倉の諸姉開會の式の後ち守屋姉の安中原市に於ける運動談あり。

議せし件

一、和歌山市置娼問題に就て運動の第一着として翌日會頭小崎書記三人にて内務大臣を訪問する事を決す

二、慈愛館へ内務省より百五十圓の下附ありし事を報告す。

三、慈愛館家屋稅の免除を其筋に請願する事に可決す

四、甲武線電車内の禁煙につき陳情する事に可決す。

五、雜誌中學世界に矯風主義に關係する文章を懸賞して擴く中學生間より募集せん事をデビス姉發議可決賞品は一等二十五圓二等十圓三等五圓二名とす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會頭のもてなしに預り午後六時閉會す。

○和歌山

一月九日本部會頭矢島女史神戸支部會長渡邊女史の來和を機とし當支部設置披露會を午後二時より岡東館に於て開催す、司會者村越婦人最初に讃美、祈禱ありて瀧本兩支部會長の開會の挨拶あり、次ぎに神戸の渡邊女史には「婦人と矯風」なる演題につきて熱心に其密接なる關係を説かれ終つて矢島先生には停車場より直に來場相成て疲勞の事を察するにも不拘誠に御元氣よく矯風事業につきての所感を御話下され滿場水を打たる如く謹みて伺へり岡本夫人の閉會の祈禱を以て散會せしは日も西山に傾く頃なりき、此日會員の大部分の參會をせしはいふまでもなく其他市長夫人初じめ市内有力者夫人、令孃、女教師、學生等百餘名の會衆を得たり殊に本會成立以來日未だ淺きにも不拘今日の如き盛會を見たるはこれ偏に天父の厚き御保護と矢島先生方の寒中をも御厭ひなく、遙々御來和被下し御熱心に依つてなりと會員一同深く感謝す。

同日夕刻より特に會員一同は親しく懇談なされ度矢島先生等の御希望に副へて渡邊姉の御宅にて集會を催す先生には日本に於ける婦人矯風會の創立當時より今日に至るまでの歴史また御經驗につき御細々と御話し被下なほ將來の働き振につきて種々御注意の點ありて一同に本會の爲盡さん事を心に誓ひて散會せしは夜も余程更けゐたり。

一月十日今朝兩先生はじめ會員二十余名記念の爲撮影をなしたり、夫より兩先生には會長付添川上知事、加藤市長、藤本旅團長、茨木中將其他名士を訪問ありて今度當市に於ける廢娼問題に就きて今後の御盡力を乞はれたり。

かく先生方には少しも休みの折なき御旅情を休めんとて有志會員渡邊姉の宅に集まり共に粗末の夕食の後彈琴、福引其他いろ／＼の餘興をなして一夕を誠に樂しく過さり。

十一日正午より兩先生を電車にて紀三井寺和歌浦へ御

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

案内申して半日を遊覧に過し同日午后五時六分の汽車にて惜しき名殘を停車場に分ち先生方は御歸國なされたり。

一、入會員

一月一日　小和田てい子

○大阪婦人ホーム第七回數入會

一月二十五日川口六番ミスプール姉の宅を拜借してクリスマス新年數入會を催す。

數日前よりホーム出身者市内近傍のもの百三十名へ案内狀を出し御主人へ御暇を願ひ置しか種々差支へのため出席出來ざる旨返書ありし者少なからずされど、當日は殆ど八十名はかり定刻午前十時に我遲れじと喜び勇みつゝ集ひ來れり讃美歌五十三番清水姉祈禱林會長は教訓的談話主任林老姉はいつもながら慈母か其の子に對して教へ導く如くに何くれとなく懇切に注意を與へられ終りに奥田姉の祈禱小山姉手製のホーム料理折詰を一同ひらき樫内姉の感謝を以て此溫き愛のかてたる晝飯をいたゞきそれより各自おもひ〳〵のかるたあそび椅子とりなど心のまゝにたのしく遊び三時に一同撮影し四時閉會たがひに次會を約束してたのしげに主家へ歸る當日も一年二年三年同主家へ勤續のもの十三人へ賞與として布紗を與へられたり。

第二回獎勵金

二月十一日紀元佳節に當り内務省より慈善團體へ下附獎勵金ありしが大阪婦人ホームに於ても再び恩惠を受けたり。

一金三百圓

吾等は益々國家社會改善のため責任の重きを感ず。

紀念日感謝會

故ウイラード孃紀念日を守らんが爲め且此年ホームのため義捐金募集に着手せしは當日なるに神は吾等の祈りに答へ玉ひて目的を果さしめ今又再び内務省より獎勵金下附せられ猶昨年末より財團法人となりし爲め慈善金の配當さへ受るに至りしは全能なる神の深き御恵みは勿論なり猶且會員姉妹の一致協力の熱心に働か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れし結果空しからずとて林會長よりホームの電話にて緊急命令的徴集感謝會を催されぬ當地に原よりも濱寺よりも住吉よりも各課長委員方も三十餘名集まり讃美祈禱聖書朗讀の後林會長より紀念日の守り方又本年は風俗課教育課の働として市内各小學校へ通俗酒害新説九十五校及幼稚園五へ各一部づゝ書狀を添へ進呈する事に決せりと。

昨年は中等程度の學校長へ日々の力一冊づゝ贈り又交際課より一昨年末與風會にて表彰せられし各々へ聖書一冊づゝ呈せしが其が動機となりて現に父子、大坂教會員となり又二男は禁酒會員となり去る一月洗禮を受けたり殆んど全家族の救はるゝに至りしものさへありと聞けば此働きの空しからざる事を今更ながら感ぜりと述べらる（救はれし人酒井市松仲仕業）時恰もよし和歌山矯風會長より時事問題につき置娼派の運動の秘密に成功を遂げんと危機一髪の際なれば内務省へ陳情書云々其他いろ〳〵大切なる事の相談ありたれば及ぶべき丈け當地に於ても風俗に關する記事を新聞に掲げる事又各姉妹共に之が爲祈禱する事、又三月は市内大學傳道なれば母の會を休み四月上旬教育課の働として大坂市婦人會共夜に教育者を招き講演會を催さん事各々準備ありたしとそれより餘興親睦のためおもしろき福引あり馬鈴薯料理のおはぎ實に手際よく風味も格別よくいつもながら感謝しつゝ戴きぬ時に四時散會を告げたりさ。

入會者

大坂教會　星野やす　同　大橋すへ
北教會　原しげの　川口若林よれ
頌主教會　吉川照代　頌主野村みれ
神保とき　弘道舘竹内よれ

〆八名

○和歌山

十二月二十二日過般來當市會の懸案たりし公娼設置建議案は去る十九日の市會にて幾多の反對あるにも不拘遂に通過さり、依つて本會にては本日瀧本會長、河野風俗課長の兩名川上知事を訪問して親しく此問題に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つき陳情し陳情書を呈出し夫より藤本旅團長、相良事務官を訪問して各夫人に面會の上盡力を仰げり、なほ日をかへて順次に市會議員及び市內有力者を訪問して本會の主義を述べて賛成を求めつゝあり。

一、四十三年度中入會員數四十名

同　退會者なし

會員名　順不同

岡本清子	河野よね	前田はる
田中政子	矢野せい子	阪口幸子
ミセス、ヘール	高村愛子	村越いし
島りき	四宮みき	瀧本みつゑ
增田ちゑ	田村くわ	羽端はな
古川きん	土井やく	仙石惠
天笠とも	吉村ますゑ	齋藤壽
山本昌	河野よしの	天野よし子
小川けふ	若尾菊枝	山本てる
小野田道子	藤原延	岡本きく枝
ミス、ラーニング	楠本篤子	柴田しづ
宮本小鶴	淺間久子	宮川はな
渡邊仲枝	鈴木むら	阪口小糸
村りの		

一、役員移動

傳道課長　村越いし（前任慰問課長）
慰問課長　田村くわ（前任傳道課長）

○靜岡

去る十四日午前十時より英和女學校階上に於て新年祝會を兼ね役員改撰會を開きたり當日は山家會長無據差支にて欠席せられし爲め城姉司會の下に聖書朗讀祈禱を捧げ續きて良習慣を養ふと云ふ要を說き人生の九分は習慣によりて支配せらるゝとて二三の實例を擧げ本年に於ける覺悟を述ぶ池田山崎數姉の所感の後二姉妹の祈りを以つて直ちに役員改撰に移る其結果石井利惠子姉會長に綾部末子姉副會長に城片岡二姉書記に山崎姉會計に倘ほ仕事部委員に松島中村鹿野の三姉當撰さる山家姉は過去二年間忠實熱心に又信德兼備以て內外を能く圓滑に治められたる勞を多とするものにて今回一家の事情辭任されたるは一同の遺憾とする所なり夫れより樂敷團欒の中に晝餐を共にし和樂相滿ち感謝の中に閉會二時迄當日の出席者二十名一月二

十七日午後一時半より北番町新會長石井姉宅にて役員會開き今後活動の方針其他會議上二三に議したり。

○兒
母之會

十一月二十四日午後一時半日本キリスト教會にて例會を開き鈴木姉司會箴言二十八章の朗讀あり此度は淡水學校緒方校長先生主婦の最も大切なる一家平和の王といふことに付適切なる御話あり皆々益せられ三時半といふに歸路につけり集會姉妹二十餘名なりき。

一月二十六日本年最初每會メソジスト教會にて開く守野みな子司會にて箴言の朗讀あり當日は中學校柳田先生家庭教育に關する最も適切なる且つ有益なる御話あり後主の祈を以て終りぬ。來會姉妹二十三名

○弘前

拾弐月拾七日午後一時半より元寺町教會堂樓上に於て例會を兼、忘年會を開く會長司會にて唱歌、聖書朗讀(詩篇百三)乙部とく子姉の祈禱書記前回記錄朗讀會計古田ふみ子姉より一ヶ年間の報告ありて後木部課長(風俗)名出いく子姉より和歌山市に於ける公娼設置問題の打破せらるゝやう同情の祈禱と助力せられん事の書面を讀まれ次に黒瀧なか子姉吉田松陰先生の母公の生涯に付有益なる所感を述べられ乙部との子姉の熱心なる勸話ありて唱歌をもつて一先づ閉會せし後宮尾みつよ子姉の彈琴に移り廣瀨中佐、草鳥の二曲を奏し一同おもひ〱の懇談の中に高松姉工藤ふさ子姉の厚意になれる茶菓を喫して散會せしは午後四時過なりき。

同日岡田りよ子姉紹介にて中原おや子姉入會す黒瀧なか子姉の紹介にて黒瀧ない子姉入會す

○在東京青年部聯合會

一月二十一日午後一時より小石川區高田老松町五十ブラックコーホームに於て青年部春期集會をひらく竹中姉司會にて聖書、朗讀、祈禱、讚美の後デビス教師の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

多年の御試驗に鑑み種々なる實例を擧げて有益なる御講話ありたり此の日横倉姉急用にて御出席なかりしはいと〳〵くちおしかりき、前日の大雪にて路悪しかりしにもかゝはらず女子學院、普連土女學校、小石川青年部及瀧の川女子聖學院等より來會せるもの三十一餘名會はてゝより有志の姉妹方のピヤノ獨奏並に合唱などあり一同よろこびにみち茶菓を頂戴して散會せしは午後四時なりき、青年部婦人矯風會員の上に天父の御惠裕あらん事を祈る。

○宇都宮市

二月八日午後三時

例により婦人矯風會例會をフライ姉宅に開く折悪しく連日の降雪に惡路言に絶するほどなりしかば會集の諸姉僅かに十二名會長の司會の許に讃美祈禱を以て開會木村副會長の「老後の樂しみ」てふ問題にて興味多き然かも熱切なる姉の經驗談あり次に書記十一月號（婦人新報）に載せられたる綱島氏の説教の一説（放蕩息子）を朗讀す後母課花科文書科の役員改選ありてその祈禱を以て閉會一同散會せる頃五時短き日脚早や去りて四天オレンジ色に化し松のみ氣高く梢をなぶる風の音のみ颯然なりき

花課　伊藤あや　長谷川とし　大塚しん　行森やすし
母課　中村くま　長谷川みつ　小林ふく
文書課　酒井さの　長井貞代

○堺市

新年會々報　矢島本部會頭恰も南下の途次吾が會に一場の應援を乞ひしに、直ちに快諾せられ、一月八日午後二時より當市西屋敷組合教會に於て、新年會を開催す、新年とともに敬愛する老會頭を久しぶりにて奉迎する事を得たるは、當會の尤も光榮として、會員一同大に喜び勇み出席者も六十餘名ありき例年の新年會に比して倍數以上副會長万代要子司會のもとに讃美聖書朗讀の後ち矢島會頭壇に上られ先づ新年の祝詞を述べられ進んで會頭が曾て神の召を蒙り始めて矯風會を設けられしより今日に至る迄て幾多の苦き經歷を踏みて今日の盛大を以てせりとの有益なる勸話ありたり會員は益々老會頭を敬愛するの念を增したり續て大阪支部書記なる清水姉立ちて會頭の勸話に對する所感をのべ且つ會員たるものは神の心をなすをこれ力め如何なる場合に立つも主義とする事を明にすべきを懇に說かれ一同多大の勇氣を與へられ後司會者會頭を會員に紹介せられ茶菓の饗應を受け且つ相互の親睦を交はし散會せしは四時頃なりき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人新報代領收證

一金一圓（四十四年度并に寄附）宮ノ前とら子
一金四圓二十錢（四十四年度六人分）清水安子
一金七十錢（四十四年度）盛岡支部
一金二圓（四十四年度）戸田きん子
一金一圓（四十三年度）堀愛子
一金十一圓（一月分）大阪支部
一金二圓（四十五年度迄）平瀨やう子
一金二圓（四十四年度迄）宮姉

社告

婦人新報代金四十三年の分未納の御方は至急左記まで御送附被下度尚ほ貳三年間未納の諸氏も會計簿の整理有之候間之また御推察申上候也

東京市小石川區原町二十二
横倉方
婦人新報社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

村岡典嗣著

本居宣長

敷島の大和心の和歌を以て有名なる本居宣長先生は、我邦國學史上に最大の人物で御坐います。本書は其の本居先生に就て眞面目に學問的に研究したもので、此種の研究の嚆矢と云つて宜いのです。篇を二つに分ち、第一編は宣長傳の研究で、其の生涯、子弟との關係、交友等を論じ、第二編では宣長學の研究を爲し、宣長學の概觀、成立、區分、由來、精神を論じ、日本古學を論じ、加茂眞淵、僧契沖等の當代の學者と比較し、最後に本居先生人格を論じて結んで居ります。考證の精確は申すまでもなく、記事の該博にして而かも簡明である事は、本書の誇りで御坐います。ともかく薄ぺらな、不眞面目な、表面丈の傳記ものばかり横行しまする現代に、本書の様な地味な研究、地味な人の傳記は、心ある人に訴ふるところが尠くないと存じます。本の装禎は極めて優美でクロスに金文字入りてあります。頁數は五百餘頁で、先づ大作と云つてよいとおもひます。

定價金壹圓五十錢　郵税十二錢

發元　東京京橋尾張町　振替東京五五三　警醒社書店

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　株式會社秀英舍印行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA